

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K14381

研究課題名（和文）親子双方の発達障害特性と親子関係および子どもの精神的健康との関連メカニズム

研究課題名（英文）Relationship between parents' and children's traits of developmental disorders, parent-child relationship, and mental health of children

研究代表者

齊藤 彩 (Saito, Aya)

お茶の水女子大学・基幹研究院・助教

研究者番号：30794416

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、親子双方の注意欠如・多動症的行動特性（ADHD特性）および自閉スペクトラム症的行動特性（ASD特性）に着目し、養育や親子関係に関する要因ならびに子どもの精神的健康に関連するメカニズムについて実証的検討を行った。ASD特性については、親のASD特性の高さは養育における困難の多さに関連するものの、ASD特性のうちいずれの下位領域が養育における困難に関連を示すのかは父母間で異なることが明らかとなった。一方、ADHD特性については、父子双方、母子双方のADHD特性の高さは親の否定的な養育態度の多さに関連を示し、さらに子どもの精神的健康の問題へと関連するメカニズムの可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、親子双方の発達障害特性、養育・親子関係に関する要因および子どもの精神的健康との関連メカニズムについて実証的に明らかにされたことは、本邦における親子の発達障害特性と心理社会的適応に関する基礎的な実証データの蓄積という学術的意義を有すると考えられる。また、本研究で獲得された知見は、発達障害特性が高い親および/または子どもの家庭に対して、養育や親子関係の問題ならびに子どもの精神的健康の問題に対する予防、早期介入の実現に向けた包括的な支援体制の構築、充実の一助となる社会的意義を有するといえるだろう。

研究成果の概要（英文）：This study focused on traits of attention deficit/hyperactivity disorder (ADHD traits) and traits of autism spectrum disorder (ASD traits) in both parents and children, and investigated the relationship between these traits, parenting and parent-child relationships, and mental health in children. Regarding ASD traits, the analyses revealed that parental higher ASD traits in both fathers and mothers were related to higher parenting difficulties. Which subdomains in parental ASD traits was associated with parenting difficulties differed between fathers and mothers. Regarding ADHD traits, the analyses revealed higher ADHD traits in both parents and children were associated with higher negative parenting, and it was related to higher mental health problems in children.

研究分野：教育心理学

キーワード：発達障害特性 注意欠如・多動症 自閉スペクトラム症 養育 家族関係 親子関係 精神的健康

### 1. 研究開始当初の背景

近年、注意欠如・多動症 (ADHD) や自閉スペクトラム症 (ASD) をはじめとする発達障害に関連する行動特性 (発達障害特性) は、診断の有無に限らず、一般人口集団内で連続体として分布することが指摘されている。発達障害特性が高い子どもをもつ親は、養育における困難や親子関係の問題に直面しやすいことが示されている。一方、子どもだけでなく親の発達障害特性の高さについても、養育における困難や親子関係の問題に関連する要因の一つである可能性が指摘されている。しかしながら、同一の研究の中で親と子どもの双方の発達障害特性に着目し、これらが親の養育や親子関係にどのような関連を示すのかについて検討した実証研究は未だ乏しい。不適切な養育や親子関係の問題は、子どもの精神的健康の問題のリスク要因である。したがって、親子双方の発達障害特性が養育や親子関係に関連する要因を媒介して子どもの精神的健康へと関連するメカニズムが存在しうる可能性が想定される。

### 2. 研究の目的

本研究は、発達障害特性の中でも注意欠如・多動症的行動特性 (ADHD 特性) と自閉スペクトラム症的行動特性 (ASD 特性) に着目し、これらの2つの発達障害特性について、親子双方の発達障害特性が養育や親子関係に対してどのような関連を示すのか、さらに子どもの精神的健康に対してどのような関連を示すのかについて、実証的に明らかにすることを目的として行われた。

具体的には、はじめに、高い発達障害特性をもつ親を対象としたインタビュー調査を実施し、発達障害特性の高さが養育や親子関係において具体的にどのような困難や問題と関連しているのかという実態を明らかにした上で、親子双方の ADHD 特性ならびに ASD 特性と養育や親子関係との関連メカニズム、さらに子どもの精神的健康への関連メカニズムを実証することを目的とした縦断質問紙調査を実施することとした。

### 3. 研究の方法

(1)はじめに、発達障害特性が高い親の養育や親子関係の実態を把握し、質問紙調査で使用する測定尺度の選定に役立てるために、予備調査として、発達障害特性が高い親を対象としたインタビュー調査を実施した。2019年8月~11月に、ADHD および/または ASD の診断を受けている、あるいは診断閣下の ADHD 特性および/または ASD 特性の高さをもつ母親 15 名を対象に、半構造化面接によるインタビュー調査を実施した。

(2)質問紙調査の実施に先立ち、質問紙調査で使用する尺度の1つとして、親の養育における支援ニーズや困難感を測定する「PNQ: Parenting Needs Questionnaire (Dissanayake et al., 2020)」の日本語版の作成を行った。原著者の許可の下、バックトランスレーションの手続きを経て、PNQ の44項目を日本語に翻訳した。

(3)2波の縦断質問紙調査のうち、第1回目の質問紙調査を2019年10月~2020年9月に実施した。2歳~小学校6年生までの子どもをもつ家庭の父親・母親に対して、子どもが在籍する幼稚園/保育園/こども園または小学校を通じて調査票を配布し、郵送により回収を行った。1006名の母親と528名の父親の合計1534名から回答が得られた。測定した主な尺度は、基本属性に加え、親の ADHD 特性および子どもの ADHD 特性、親の ASD 特性および子どもの ASD 特性、養育における困難、子どもの精神的健康であった。また、第2回目の質問紙調査を2020年10月~2021年9月に実施した。第1回目の質問紙調査に回答した父親・母親のうち、第2回目の質問紙調査への参加に同意した家庭に郵送で調査票を配布し、郵送により回収を行った。304名の母親と158名の父親の合計462名から回答が得られた。測定した主な尺度は、基本属性に加え、養育における困難、親の養育態度、家族関係、子どもの精神的健康であった。

### 4. 研究成果

(1)インタビュー調査により得られたデータの分析の結果、発達障害の診断を受けている女性や診断閣下の発達障害特性の高さをもつ女性が母親となり母親として生きる過程の中では、障害特性に基づく困難、診断の有無や障害受容、対処法の模索などにおいて複雑な心情の絡み合いや葛藤が見られた。子どもの養育におけるさまざまな側面において、各母親は自身の発達障害特性と上手く付き合うための工夫をしながら養育を行おうと努めているものの、支援やサービスは十分に充実しているとは言い切れない現実が浮き彫りとなった。主たる結果として、ASD の診断を受けている母親5名を対象とした分析結果を Figure 1 に示す。5の特大カテゴリー、10の大カテゴリー、40の中カテゴリー、137の小カテゴリーが見出された。5つの特大カテゴリーは、【うまいかない】【うまくやりたい】【対処を求めて行動する】【よりよく生きたい】、【よりよい母親でありたい】であった。

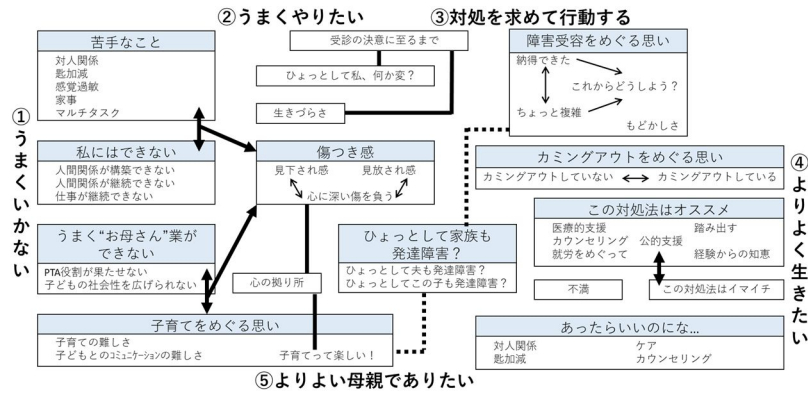


Figure 1 KJ法によるASDをもつ母親の子育てに関する分析結果

(2)第1回目の質問紙調査により、子どもの性別および年齢を統制した上で、母親のADHD特性と子どものADHD特性の双方の高さが、母親の養育における困難の高さに関連することが明らかとなった(母:  $\beta = .45, p < .001$ ; 子:  $\beta = .17, p < .001$ )。一方、父親については、父親のADHD特性の高さは養育における困難の高さに関連するものの、子どものADHD特性の高さは父親の養育における困難の高さには有意な関連を示さなかった(父:  $\beta = .46, p < .001$ ; 子:  $\beta = .09, n.s.$ )。

同様に、第1回目の質問紙調査で得られたデータにより、子どもの性別、年齢、情緒・行動の問題を統制した上で、親のASD特性と養育における困難との関連が見られるかについて検討を行った(Table 1)。父親においては、ASD特性の下位尺度のうちコミュニケーションの問題の多さが養育における困難の多さに関連を示した。一方、母親においては、ASD特性の下位尺度のうち注意の切り替えの弱さ、コミュニケーションの問題の多さ、想像力の低さが養育における困難の多さに関連を示した。また、母親においては、ASDの特徴の一つである細部への関心の高さが、むしろ養育における困難の少なさに関連することが明らかとなった。本研究の結果より、ASD特性が高い親に対して、子どもの特徴にかかわらず、適切なサポートを提供する必要性が示唆された。全般的なASD特性の高さのみならず、ASD特性に含まれる下位領域にも着目し、養育における強みと弱みの双方に目を向けた支援を構築していくことが重要であると考えられる。

Table 1 養育における困難を従属変数とした階層的重回帰分析

		父親			母親			
		B	SE B	$\beta$	$AR^2$	B	SE B	$\beta$
Step1	子どもの特性							.11***
	性別	-3.38	1.79	-.09		-1.56	1.08	-.04
	年齢	-.04	.03	-.08		-.05	.02	-.10**
	情緒・行動の問題	.19	.17	.05		.76	.11	.22***
Step2	親のASD特性							.09***
	社会的スキル	.07	.41	.01		.32	.26	.05
	注意の切り替え	1.00	.53	.11		.70	.34	.08*
	細部への関心	-.32	.41	-.04		-.98	.25	-.11***
	コミュニケーション	2.11	.56	.22***		1.21	.36	.14***
	想像力	.51	.52	.05		1.28	.34	.12***
$R^2$		.13			.20			

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

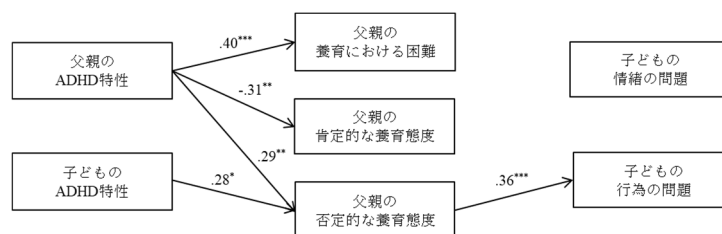
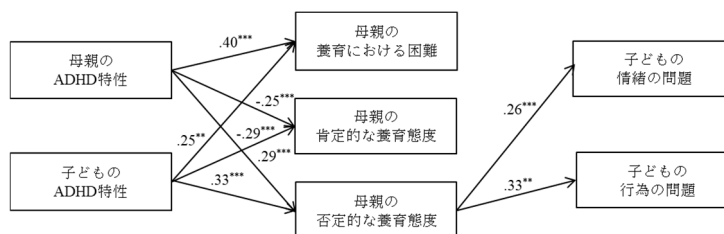
(3)第1回目の質問紙調査ならびに第2回目の質問紙調査で得られたデータにより、親子双方の発達障害特性と養育や親子関係に関する要因との縦断的関連について検討を行った。第1回目の質問紙調査で測定した親子双方の発達障害特性と独立変数とし、第2回目の質問紙調査で測定した養育・親子関係要因を従属変数とする重回帰分析を行った(Table 2)。その結果、父親については、父親のADHD特性の高さが養育における困難の高さに正の関連、肯定的養育態度に負の関連、否定的養育態度に正の関連を示した。子どものADHD特性の高さは否定的養育態度に正の関連を示した。母親については、母親のADHD特性の高さが養育における困難の高さに正の関連、肯定的養育態度に負の関連、否定的養育態度に正の関連を示した。子どものADHD特性の高さも同様に、養育における困難の高さに正の関連、肯定的養育態度に負の関連、否定的養育態度に正の関連を示した。家族の凝集性に対しては、親子双方のADHD特性ならびにASD特性のいずれについても有意な関連を示さなかった。また、親のADHD特性と子どものADHD特性、親のASD特性と子どものASD特性の交互作用についても、有意な関連は示されなかった。

Table 2 親子の発達障害特性と養育要因に関する重回帰分析

	父親			母親		
	養育における困難	肯定的養育態度	否定的養育態度	養育における困難	肯定的養育態度	否定的養育態度
子どもの性別	.09	-.00	-.01	-.04	-.01	-.08
子どもの年齢	.11	-.18	-.08	.11	-.13	.02
親のADHD特性	.34*	-.27***	.29*	.41***	-.26***	.29***
親のASD特性	.14	-.10	.16	.01	-.06	.08
子どものADHD特性	-.01	-.03	.30*	.27***	-.26***	.35***
子どものASD特性	-.01	.07	-.17	-.04	.10	-.14
$R^2$	.20	.14	.24	.29	.17	.27

\*  $p < .05$ , \*\*\*  $p < .001$ 

さらに、重回帰分析において養育要因との関連が見られた親子の ADHD 特性と養育要因、子どもの精神的健康の関連メカニズムを実証するためのパス解析を行った (Figure 2, Figure 3)。分析においては、子どもの性別ならびに年齢を統制変数とした。父親については、父親の ADHD 特性の高さは養育における困難の高さ、肯定的な養育態度の少なさ、否定的な養育態度の多さに関連し、子どもの ADHD 特性の高さは父親の否定的な養育の多さに関連を示した。このうち、父親の否定的な養育程度の多さが子どもの行為の問題の多さに関連を示した。一方、母親については、母子双方の ADHD 特性の高さは養育における困難の高さ、肯定的な養育態度の少なさ、否定的な養育態度の多さに関連を示した。このうち、母親の否定的な養育態度の多さが子どもの情緒の問題の多さと行為の問題の多さに関連を示した。

Figure 2 父子の ADHD 特性、養育要因、子どもの精神的健康に関するパス解析の結果  
 $\chi^2(16) = 12.6, p = .70, GFI = .968, CFI = 1.00, RMSEA = .00$ Figure 3 母子の ADHD 特性、養育要因、子どもの精神的健康に関するパス解析の結果  
 $\chi^2(13) = 16.82, p = .21, GFI = .978, CFI = .988, RMSEA = .047$ 

本研究により、親子双方の ADHD 特性と ASD 特性を同一の分析において検討した場合、親の ADHD 特性の高さは、父親と母親の双方に共通して、養育における困難の多さ、肯定的な養育態度の少なさならびに否定的な養育態度の多さに関連する要因であることが確認された。加えて、子どもの ADHD 特性の高さについても、父親および母親の否定的な養育態度の多さ、母親の養育における困難の多さや肯定的な養育態度の少なさに関連する要因であることが示された。さらに、父親の否定的な養育態度の多さは子どもの行為の問題の多さに、母親の否定的な養育態度の多さは子どもの情緒の問題の多さならびに行為の問題の多さに関連することが明らかとなった。ADHD 特性が高い親および/または子どもの家庭に対して、養育における困難の軽減、肯定的な養育態度の促進や否定的な養育態度の抑制につながるような、適切なフォローアップならびに支援を提供することの重要性が示唆された。特に、子どもの精神的健康における問題の予防や早期介入を実現するためには、否定的な養育態度の予防や軽減に向けた取り組みが重要である可能性が示されたといえるだろう。

## &lt; 引用文献 &gt;

Dissanayake, C., Richdale, A., Kolivas, N., & Pamment, L. (2020). An exploratory study of autism traits and parenting. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 50, 2593-2606.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Saito Aya, Matsumoto Satoko, Sato Minoru, Sakata Yukina, Haraguchi Hideyuki	4. 巻 124
2. 論文標題 Relationship between parental autistic traits and parenting difficulties in a Japanese community sample	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Research in Developmental Disabilities	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ridd.2022.104210	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤彩	4. 巻 4(11)
2. 論文標題 親の注意欠如・多動症的行動特性と養育における困難との関連	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Precision Medicine	6. 最初と最後の頁 1065-1067
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齊藤彩	4. 巻 23(3)
2. 論文標題 親の自閉症的行動特性と養育における困難との関連	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 74-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齊藤彩, 松本聡子, 佐藤みのり, 坂田侑奈, 原口英之
2. 発表標題 親の自閉症的行動特性と養育における困難との関連
3. 学会等名 日本教育心理学会第63回総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齊藤彩, 佐藤みのり
2. 発表標題 自閉スペクトラム症をもつ成人女性の子育てに関する質的検討 母親の語りからみる困難感と支援ニーズ
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第30回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齊藤彩・坂田侑奈・佐藤みのり・原口英之・松本聡子
2. 発表標題 親の自閉症的行動特性と養育ニーズとの関連 日本語版Parenting Needs Questionnaireを用いた検討
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第28回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齊藤彩・佐藤みのり・坂田侑奈
2. 発表標題 親子の注意欠如・多動症的行動特性と養育ニーズに関する検討
3. 学会等名 日本教育心理学会第62回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齊藤彩・菅原ますみ
2. 発表標題 親子双方の注意欠如・多動症的行動特性と親子関係との関連
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齊藤彩・坂田侑奈・佐藤みのり
2. 発表標題 うつ病患者と子どもの親子関係に関する研究(2) 注意欠如・多動傾向に着目して
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第28回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤みのり・齊藤彩・坂田侑奈
2. 発表標題 うつ病患者と子どもの親子関係に関する研究(1) 子どものケア提供行動に着目して
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第28回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂田侑奈・佐藤みのり・齊藤彩
2. 発表標題 うつ病患者と子どもの親子関係に関する研究(3) 自閉症スペクトラム傾向に着目して
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第28回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------